

## 2019 年度独立行政法人国立美術館年度計画

### I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

#### 1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

##### (1) 多様な鑑賞機会の提供

①-1 独立行政法人国立美術館（以下「国立美術館」という。）は、研究成果、利用者のニーズを踏まえ、各館の特色を生かした所蔵作品展を小企画展・テーマ展として行うものを含め開催する。企画展では、メディアアート等の先端的な展覧会やアジアに目を向けた展覧会、作家・作品の再発見・再評価、海外の美術館との連携協力により世界の美術の紹介を目指した展覧会を開催する。

映画については、保存・復元成果の活用と、国内外の同種機関や関連団体との積極的な連携を通して、映画人や時代、国やジャンル等様々な切り口による上映会・展覧会をバランスよく実施し、多様な鑑賞機会の提供を図る。

また、入館者アンケート調査及び「非来館者調査」等を実施し、そのニーズや満足度を把握し、分析結果を展覧会事業等に反映させる。

その他各館のホームページをはじめ、インターネットを活用した展覧会事業等の広報により一層努める。

各館では以下の方針に基づき、別表1の展覧会等を開催する。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

所蔵作品展では、特集展示による新たな視点の提供や、多言語による掲出解説文の充実を努め、約100年にわたる日本美術の流れを体系的に示す国内最大の展示としての使命を十全に果たす。主な特集展示として、「美術館の春まつり」、「解放され行く人間性 女性アーティストによる作品を中心に」、「北脇昇：一粒の種に宇宙を視る」等を開催する。

企画展では、昭和期の洋画を主導した画家の回顧展「福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ」、前年逝去した世界的アニメーション映画監督の回顧展「高畑勲展—日本のアニメーションに遺したもの」、メディアアート、建築など先端的な芸術表現を扱う「窓展（仮称）」、近代の代表的な日本画家の名品を紹介する「鏑木清方（仮称）」を開催する。また、世界的な評価を得るイギリスの画家のアジア初の大規模回顧展「ピーター・ドイグ展（仮称）」を開催する。

〈工芸館〉

所蔵作品展では、「デザインの（居）場所」展を開催し、国境や領域、時間などを軸に、デザインの存在について多角的に考察する。夏季の子供企画「こどもたちからの挑戦状（仮称）」では、子供の来館者によって2004年以来作成されたワークシート『図鑑カード』を元に、子供の眼が捉えた工芸の姿を再考する。会期中は、子供及び一般来館者向けの「セルフガイド」を用意し、工芸の基礎的な知識の普及に努める。年末から年始にかけて

ては、明治以降、時代を先導してきた作家やグループなどによる20の試みを当館名品によって紹介し、所蔵作品の新たな魅力の紹介と活用を図る。

企画展では、前年度に引き続き「The 備前一土と炎から生まれる造形美」を開催し、備前焼にスポットをあて、近世から現代までの代表作で歴史的な流れを紹介する。「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクション—メトロポリタン美術館所蔵」では、素材特有の美しさが世界的に注目を集めている日本の近・現代の竹工芸の魅力を、メトロポリタン美術館の所蔵作品によって紹介する。本館ギャラリー4では、前年度に引き続き「イメージコレクター・杉浦非水展」を開催し、デザイン展としてグラフィック・デザインの創成期に活躍した図案家・杉浦非水を取り上げ、ポスターや図案集などを展示するとともに、杉浦非水が図案教育に携わった一面を検証する。

#### (京都国立近代美術館)

所蔵作品展では、企画展に連動したテーマや小企画を実施するとともに、年間6回の展示替えてコレクションを紹介する。

企画展では、前年度に引き続き「京都の染織 1960年代から今日まで」を開催し、1960年代から今日まで多様に展開された京都の染織の活動を考察する。「京都新聞創刊140年記念 川勝コレクション 鐘溪窯 陶工・河井寛次郎」では、日本を代表する陶工・河井寛次郎の重要な作品群として知られる川勝コレクションの代表作を一堂に紹介する。「トルコ文化年2019 トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美」では、ラーレ（チューリップ）文様のあしらわれた美術工芸品を中心に、オスマン帝国の優美な宮廷文化を紹介する。京都服飾文化研究財団との共同企画による「ドレス・コード？——着る人たちのゲーム」では、現代美術やマンガ、映画等に描かれたファッションを通してその社会的役割を考察する。「円山応挙から近代京都画壇へ」では、円山応挙、呉春から近代に至る円山・四条派の系譜を紹介し、京都画壇において重要な位置を占めるこの流派について再考する機会とする。「イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ展（仮称）」は、2017年に亡くなったニーノ・カルーソの没後初となる回顧展であり、代表作を通じて創作活動の全容を紹介する。「チェコ・デザイン100年の旅」では、1918年のチェコスロバキア建国以来100年の歴史を重ねてきたチェコの現代デザインを紹介する。

#### (国立映画アーカイブ)

上映会では、1960年代以降の日本の娯楽映画を牽引してきた巨匠の作品を上映する「映画監督 深作欣二」、2017年と2018年に逝去した映画人の仕事を顕彰する「逝ける映画人を偲んで 2017-2018」を開催する。11月には「外国無声映画特集（仮称）」を開催し、夜の回の上映は生伴奏付きとする。所蔵作品上映では、「戦後日本ドキュメンタリー映画再考（仮称）」、現代日本映画の重要な監督にフォーカスを当てる「映画監督 河瀬直美（仮称）」等を開催する。共催企画上映では、「第41回びあフィルムフェスティバル」や「EU フィルムデーズ 2019」のほか、東京国際映画祭等との共催となる「アメリカ議会図書館 映画コレクション（仮称）」、オリンピック文化遺産財団との共催で京都・福岡にも巡回する「オリンピック記録映画特集（仮称）」、「日澳洪国交樹立 150周年 オーストリア映画・ハンガリー映画特集（仮称）」など、共催によって可能となるプログラムの実施に積極的に取り組み、多彩な鑑賞機会の提供を図る。

展覧会では、スチル写真・ポスター・プレス資料等の所蔵コレクションを活用しつつ、特集展示「NFAJ コレクションでみる 日本映画の歴史」を実施するとともに、日本を代表する映画専門イラストレーターの業績を取り上げる「キネマ旬報創刊 100 年記念 映画イラストレーター宮崎祐治の仕事」、日本の映画雑誌の歴史を巡る「映画雑誌の秘かな愉しみ（仮称）」、芸術性の高いポーランド独自の映画ポスター文化を紹介する京都国立近代美術館との共催展「日本・ポーランド国交樹立 100 周年記念 ポーランドの映画ポスター（仮称）」を開催する。さらに、所蔵コレクションのより効果的な公開を目指し、トーク等の事業を充実させる。また、館外における映画資料の展示活動を充実させる。

#### （国立西洋美術館）

所蔵作品展では、松方コレクションを含む絵画及び彫刻作品の展示をするとともに、版画素描展示室において「林忠正—ジャポニズムを支えたパリの美術商」、 「写本展 I（仮称）」及び「写本展 II（仮称）」を行う。また常設展示室の一部を活用し、特別展「日本・フィンランド外交関係樹立 100 周年記念 モダン・ウーマン—フィンランド美術を彩った女性芸術家たち」を開催し、近年注目されているフィンランド美術の、特に女性画家に焦点を当てる。

企画展では、前年度に引き続き「国立西洋美術館開館 60 周年記念 ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代」を開催するほか、「国立西洋美術館開館 60 周年記念 松方コレクション展」では、松方コレクションの形成と散逸、そして国立西洋美術館設立に至る過程を辿る。「日本・オーストリア友好 150 周年記念 ハプスブルク展—600 年にわたる帝国コレクションの歴史」では、オーストリア・ハプスブルク家代々の統治者とその美術コレクションを紹介する。「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」では、この美術館が所蔵する名品によって、イギリスにおけるヨーロッパ大陸美術のコレクション形成史を概観する。

#### （国立国際美術館）

所蔵作品展では、前年度に引き続き「コレクション 3：見えないもののイメージ」を開催するほか、企画展に合わせ、3 期に分けて展示を開催する。1 期と 2 期は、2018 年度に購入したジャコメッティ《ヤナイハラ I》を中心に、1 期はジャコメッティ作品が日本に与えた影響について紹介し、2 期はジャコメッティの芸術をテーマとした現代作家の映像作品と共に紹介する。3 期は国立国際美術館が所蔵する名品を中心とした展示を実施する。

企画展では、前年度に引き続き「クリスチャン・ボルタンスキー — Lifetime」を開催し、記憶や歴史という観点で、戦後の現代美術に新たな地平を切り開いた作家ボルタンスキーを紹介する。80 年代以降、抽象的表現の可能性を探究している 15 作家による「抽象世界」、ロシア未来派の作家タトリンから現代の建築界を代表するザハ・ハディドまで、20 世紀以降に計画された先進的な建築を紹介する「インポッシブル・アーキテクチャー」を開催する。「日本・オーストリア外交樹立 150 周年記念 ウィーン・モダン クリムト、シーレ 世紀末への道」では、ウィーン市美術館が所蔵する作品によってウィーン 19 世紀末芸術を中心に紹介する。

(国立新美術館)

前年度に引き続き「イケムラレイコ 土と星 Our Planet」及び「トルコ文化年 2019 トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美」を開催する。「日本・オーストリア 外交樹立 150 周年記念 ウィーン・モダン クリムト、シーレ 世紀末への道」では、ウィーン市美術館が所蔵する作品によってウィーン 19 世紀末芸術を中心に紹介する。「クリスチャン・ボルタンスキー — Lifetime」では、記憶や歴史という観点で、戦後の現代美術に新たな地平を切り開いた作家ボルタンスキーを紹介する。現代美術の現況を見せる新たなタイプの展覧会として文学をテーマにした「美術と文学：日本現代美術展（仮称）」を開催する。「カルティエ、時の結晶」では、伝統と革新を両立させてきたカルティエの歴史を、会場構成を手がける新素材研究所（杉本博司＋榊田倫之）の協力を得て、現代的な視点に基づいて紹介する。「日本・ハンガリー外交関係開設 150 周年記念 ハンガリー国立美術館展（仮称）」は、ブダペスト国立西洋美術館とハンガリー・ナショナル・ギャラリーのコレクションより、ルネサンスから 20 世紀初頭までの選りすぐりの名品を紹介する。「DOMANI・明日展 2020 日本博スペシャル（仮称）」は、文化庁の「新進芸術家海外研修制度」を利用して海外で研鑽を積んだアーティストたちを取り上げる。「時空を超える日本のアート—古典×現代 2020（仮称）」では、現代の表現に古典の名品を組み合わせることにより、それぞれの魅力を新たな観点で紹介する。

- ①-2 国立美術館における企画機能の強化を図るため、交換展・共同企画展の充実と、所蔵作品の相互貸出の推進に努めるとともに、5 館共同企画展の成果を踏まえ、今後の各館連携について検討する。
- ①-3 国立美術館は、展覧会ごとに実施目的、想定する入館者層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境の確保、広報活動、過去の入館者等の状況等を踏まえて入館者数の目標を設定し、その達成に努める。
- ② 国立美術館の所蔵作品を効果的に活用し、地方における鑑賞機会の充実及び美術の普及を図るため、全国の公私立美術館等と連携して、地方巡回展を実施する。また、全国の公立文化施設等において優秀映画鑑賞推進事業を実施する。

ア 国立美術館巡回展

「東京国立近代美術館所蔵品展

きっかけは「彫刻」。—近代から現代までの日本の彫刻と立体造形」

（担当館：東京国立近代美術館）

期間：2019年9月21日（土）～11月24日（日）（56日間）

会場：熊本市現代美術館（熊本県熊本市）

イ 東京国立近代美術館工芸館巡回展

「東京国立近代美術館工芸館巡回展

20世紀の工芸 日本×西洋 —新しい表現を求めて—」

（ア）期間：2019年4月27日（土）～6月16日（日）（45日間）

会場：川越市立美術館（埼玉県川越市）

（イ）期間：2019年9月27日（金）～11月24日（日）（51日間）

会場：身延町なかとみ現代工芸美術館（山梨県身延町）

#### ウ 優秀映画鑑賞推進事業

広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供し、あわせて国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存の重要性についての理解を促進するため、文化庁との共催事業として、教育委員会、公共文化施設等と連携・協力して、全国各地で映画の巡回上映を実施する。

プログラム：25プログラム 100作品（1プログラム4作品）

日本映画史を彩る名匠たちの代表作やスターが活躍するヒット作、時代劇、青春映画等、それぞれのジャンルを代表する名作、時代を画した話題作等で構成し、同時に、地域の特色を持った構成により、会場が参加しやすいよう工夫をする。

期間：2019年7月1日（月）～2020年3月8日（日）

会場：全国160会場（予定）

#### エ 巡回上映等

(ア) 「NFAJ 所蔵作品選集 MoMAK Films」(年4回)

期間：2019年5月、8月、11月、2020年2月（予定）

会場・共催：京都国立近代美術館

(イ) 「第19回中之島映像劇場—国立映画アーカイブ所蔵作品による」

期間：2020年3月（予定）

会場・共催：国立国際美術館

(ウ) 「東京国際フォーラム+国立映画アーカイブ 月曜シネサロン&トーク」

期間：2019年6～7月、9月、11～12月、2020年2～3月（予定）

会場・共催：東京国際フォーラム（東京都千代田区）

(エ) 「Fシネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！  
(仮称)」

期間：2019年4月～2020年3月

会場：地方会場複数（予定）

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター

③ 東京国立近代美術館工芸館の石川県への移転に向けた気運醸成のため、石川県内の美術館と連携展示会を実施し、移転先地域との連携を強化する。

(ア) 「石川連携展示会 東京国立近代美術館工芸館所蔵作品展（仮称）」

・石川県九谷焼美術館（石川県加賀市）

期間：2019年11月1日（金）～12月15日（日）（39日間）

・石川県七尾美術館（石川県七尾市）

期間：2019年12月14日（土）～2020年2月11日（火）（46日間）

(イ) 「東京国立近代美術館工芸館名品展（仮称）」

・石川県立美術館（石川県金沢市）

期間：2019年11月22日（金）～12月22日（日）（31日間）

## (2) 美術創造活動の活性化の推進

- ① 国際的に注目されるメディアアート、マンガ、アニメ、建築、デザイン、ファッション等の様々な芸術表現を紹介し、新たな視点を提起する展覧会事業等を実施する。
  - ア 東京国立近代美術館本館では、前年逝去した世界的アニメーション映画監督の回顧展「高畑勲展—日本のアニメーションに遺したもの」を開催する〔再掲〕。また「窓展（仮称）」においてメディアアート、建築を取り扱う〔再掲〕。所蔵作品展「MOMATコレクション」においては、1970年代以降の美術動向中重要な位置を占める映像作品の収集・展示に力を入れる。
  - イ 京都国立近代美術館では、「ドレス・コード?—着る人たちのゲーム」において、現代美術やマンガ、映画等に描かれたファッションを通してその社会的役割を考察する〔再掲〕。
  - ウ 国立映画アーカイブでは、教育普及企画の「こども映画館2019年の夏休み★（仮称）」において、日本アニメーション映画をテーマにしたプログラム等を開催する。さらに一般社団法人コミュニティシネマセンターと共催で「Fシネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！（仮称）」の巡回上映を開催し、館外での人材育成活動に有用な教材及びそのプログラムを検証する。
  - エ 国立国際美術館では、「インボッシブル・アーキテクチャー」において、建築模型や建築図面、CG等を用いて、建築家たちが構想し、実現することのなかった建築計画や近未来的な都市空間を観覧してもらえるような展示を実施する〔再掲〕。
  - オ 国立新美術館では、様々な芸術表現を紹介する展覧会事業等について以下のとおり実施する。
    - (ア) 「クリスチャン・ボルタンスキー — Lifetime」では、大量の古着や、光と影、映像等を駆使した大掛かりなインスタレーションを実現する〔再掲〕。
    - (イ) 「カルティエ、時の結晶」展は、伝統と革新を両立させてきたカルティエの洗練されたジュエリーを、新素材研究所（杉本博司＋榊田倫之）がデザインした「時」をテーマに回遊する、斬新な会場構成のなかで見せる新たな試みである〔再掲〕。
    - (ウ) 「時空を超える日本のアート—古典×現代 2020（仮称）」では、時代を超えて共通する造形要素、理念、主題等に着眼し、古典と現代の表現を並べて鑑賞するというこれまでにない新しい組み合わせの展示を実施する〔再掲〕。
    - (エ) アニメーション表現による映像作品を紹介する機会として「TOKYO ANIMA!2019」を共催するとともに、「インターカレッジアニメーションフェスティバル(ICAF)2019」及び「イントゥ・アニメーション」に特別協力する。また、マンガ、アニメーション、ゲームに関連した事業の企画や協力を行う。
- ② 国立新美術館は、美術団体等に公募展会場の提供等を行う。
  - ア 2019年度に公募展等を開催する美術団体等に会場を提供する。
  - イ 2021年度に施設を使用する美術団体等を決定する。
  - ウ 美術団体等が快適に施設を使用できる環境の充実を図るとともに、美術団体等と連携して教育普及事業を行う。

### (3) 美術に関する情報の拠点としての機能向上

美術に関する情報の拠点としての機能を向上させ、国民の美術に関する理解の促進に寄与するとともに、長期的には、日本・アジアにおける西洋美術の、また世界における日本近・現代美術の研究の中心となることを目指し、2014年度に設置した「国立美術館のデータベース作成と公開に関するワーキンググループ」において検討を進める。

① 法人のホームページ及び各館のホームページについては、内容の充実を図り、国立美術館の活動について積極的な情報発信に努める。

所蔵作品情報については、2016年度に実施した2006年度以降の新収蔵作品の著作権者の調査等に基づき、許諾を得たものについて国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに掲載し、収録画像の増加に努めるとともに、新収蔵作品等について著作権者の調査を継続する。加えて、専門家のための情報発信として、歴史情報（来歴等）を含む所蔵作品情報の収集・整理に努め、専門家向けにも利用可能なレベルの情報をインターネットを通じて公開し、国内外の研究促進に貢献する。

また、国立美術館の公開情報資源（国立美術館所蔵作品総合目録検索システム、国立美術館各館の図書検索システム、国立西洋美術館所蔵作品データベース及び国立新美術館アートコモンズ等）を一元的に検索・閲覧できるシステムの開発を進めるとともに、国立国会図書館サーチ（NDL Search）及び文化庁文化遺産オンラインとの連携を継続する。

このほか、国立美術館の事業成果を取りまとめた『国立美術館年報』を発行する。

#### (東京国立近代美術館)

ア 研究紀要24号（2019年度刊行予定）の全文をホームページで公開する。

イ ホームページの更なる機能向上に向けての知見の蓄積を図る。また、ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（以下「SNS」という。）を活用し、積極的に情報を発信する。

ウ 「東京国立近代美術館リポジトリ」を構築し、ホームページ上で刊行物等を広く公開する。

#### (京都国立近代美術館)

ア 利用者のニーズの多様化に対応し、スマートフォンの普及など、端末の環境変化にあった情報提供に努める。

イ 展覧会情報、講演会、教育普及などのイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。さらに、SNSを活用し、積極的に情報を発信する。

ウ コレクション・ギャラリーの小企画、テーマ展示に関する小解説をホームページに掲載し、情報発信の充実に努める。

エ 過去の展覧会情報をアーカイブ化して、ホームページ上で公開する。

#### (国立映画アーカイブ)

ア 定期刊行物及び上映作品に関する広報物の内容の充実と、従来のホームページ、メールマガジン、ツイッター、フェイスブックに加え、2018年度に新たに開設したインスタグラムを活用し、積極的に情報発信を行う。

イ 外部資金等を活用した所蔵映画フィルム及び関連資料のデジタル化を推進し、外部

研究機関等と連携協力したweb公開を行う。

(国立西洋美術館)

- ア 専門家のための情報発信として、歴史情報（来歴等）を含む所蔵作品情報の収集・整理に努め、専門家向けにも利用可能なレベルの情報をインターネットを通じて日英2ヶ国語で公開し、国内外の研究促進に貢献する。
- イ 「国立西洋美術館出版物リポジトリ」を通じて『国立西洋美術館研究紀要』及び『国立西洋美術館報』最新号を公開し、美術に関する研究成果等についてオープンアクセス化を推進する。
- ウ 広報の情報発信として、展覧会活動その他の活動状況を日英2ヶ国語のホームページやSNSを通じて積極的に発信する。
- エ 所蔵作品に関する情報資産の安全な運用のため、所蔵作品データのバックアップ・コピーの作成及び遠隔地での保管を実施する。

(国立国際美術館)

- ア レジストラの管理の下、所蔵作品管理システムを活用して効率的管理を行う。
- イ 歴史情報（来歴、展歴等）を含む所蔵作品の情報整備に努め、インターネットを通じて日英2か国語で公開する。
- ウ 所蔵作品、展覧会情報、講演会、教育普及事業等のイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。さらに複数のSNSを活用し、積極的に情報を発信する。
- エ ホームページについて、現在の展覧会情報だけでなく、過去の展覧会情報についても充実を図る。また、総合的な情報発信、広報の向上のためにホームページの改修を計画する。
- オ 各展覧会で作成した4か国語のフロアガイドをホームページ上で公開する。

(国立新美術館)

- ア SNS等を活用し、館の活動を積極的に発信するとともに、ホームページへの利用者の誘導を行う。スマートフォン等でも使いやすいホームページを整備し、利用者の利便性の向上を目指す。
- イ 所蔵する図書資料や写真資料、戦後日本の展覧会データのホームページ上の横断検索を検討し、情報資源の積極的な活用を図る。
- ウ 脆弱な所蔵資料を対象としたデジタル化を実施する。さらに、これまで閲覧に供することが難しかった脆弱な所蔵資料をデジタル化資料として提供する閲覧サービスを試験的に運用し、脆弱な所蔵資料の保存と利用者の閲覧の利便性向上の両立を図る。

- ② 美術史その他関連諸学に関する資料、国内外の美術館や展覧会に関する情報及び資料を収集し、各館の情報コーナー、アトライブラリー、資料閲覧室等において、情報サービスの提供を実施する。

(東京国立近代美術館)

本館アトライブラリーにおいて近・現代美術関連資料を収集し、公開する活動を継続

的に進める。また2020年の工芸館移転に向け、工芸館図書閲覧室所蔵資料の整理を進める。

(京都国立近代美術館)

情報資料室において所蔵する図書及び美術資料の外部研究者等への公開を継続的に進める。

(国立映画アーカイブ)

ア 映画関連の図書資料を、購入や寄贈などを通じて積極的かつ継続的に収集し公開する。

イ 戦前期の映画雑誌など図書資料のデジタル閲覧システムの充実を図る。

(国立西洋美術館)

ア 西洋美術に関する情報及び資料を積極的に収集し、調査研究活動の基盤とする。収集資料は研究資料センターにおいて外部利用者にも閲覧可能とする。

イ 美術に関する情報拠点としての機能を強化するとともに国際的な美術情報流通の向上に寄与するため、美術図書館連絡会や「アート・ディスカバリー・グループ・カタログ」への参加等、国内外の美術図書館と連携する。

ウ 「国立西洋美術館開館60周年記念 松方コレクション展」、「林忠正—ジャポニスムを支えたパリの美術商」等の展覧会で得た知見を活かしつつ、松方コレクション及び林忠正資料を中心に研究資源の公開に順次着手する。

(国立国際美術館)

現代美術に関する資料や情報を積極的に収集し、調査研究活動の基盤とする。また、情報資料室において所蔵する図書及び美術資料の外部研究者等への公開を継続的に進める。

(国立新美術館)

ア 国内美術展カタログの海外への寄贈事業（Japan Art Catalogプロジェクト）の充実を図るとともに、国内有数の所蔵数を誇る展覧会カタログのコレクションの更なる充実に努め、日本の現代美術に関する資料のアーカイブ構築・公開を進める。

イ 「アート commons」の収録展覧会情報のより一層の充実を図り、展覧会情報と同館が有する美術情報との連携を進める。また、「アート commons」の収録展覧会情報を広く活用するために文化情報等を横断的に検索できる、国立国会図書館が実施する「ジャパンサーチ」との連携等を行う。

- ③ 国立美術館において蓄積された作品、図書、展覧会等に関わる情報資源の安全な活用を図るためにデータの二重化を含めバックアップ体制を維持する。そのためのバックアップ用 VPN（バーチャル・プライベート・ネットワーク）回線を維持する。

#### (4) 教育普及活動の充実

- ① 年齢や理解の程度に応じたきめ細かい多様な事業を展開するとともに、美術教育に携

わる教員等に対する美術館を活用した鑑賞教育に関する研修や、学校で活用できる教材「アートカード」の貸出と普及に努め、美術の一層の普及を図る。また、学校や社会教育施設に対して、これら事業の広報に努める。

#### (東京国立近代美術館)

##### 〈本館〉

外国人来館者向けの英語による鑑賞・異文化交流プログラムの実施、及びビジネスパーソン対象のオリジナルプログラムの開発を行う。その他、所蔵作品展、企画展ともに、幅広い層にあわせたレベルと内容の教育普及プログラムを実施する。特に小・中学生、高校生の発達段階に応じた鑑賞教育は、生涯にわたって美術と美術館に親しむための基礎的な学びの機会として位置付け、学校と連携しつつ実施し、調査・研究を進める。

ア 企画展に関する講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施

イ 所蔵作品展に関するキュレーター・トーク、解説ボランティア（本館ガイドスタッフ）による所蔵品ガイドやハイライト・ツアーの実施

ウ 「春まつりトークラリー」や「フライデー・ナイトトーク」など、イベントや夜間開館に対応した解説プログラムの実施

エ 外国人来館者向けの英語鑑賞プログラム「Let's Talk Art」の実施

オ ビジネスパーソン向けに鑑賞プログラムの開発、実施

カ 各種学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのギャラリートーク、小・中学生向けの「セルフガイド」の会場配布、教員研修、「先生のための鑑賞日」の実施

キ 教員研究団体（東京都図画工作研究会・東京都中学美術研究会、東京都高校美術工芸研究会）との連携による研修への協力

ク 小学校中学年までを対象とした鑑賞教室「こども美術館」と未就学児とその親を対象とした「おやこでトーク」の実施

##### 〈工芸館〉

所蔵作品展、企画展ごとにギャラリートークや解説ボランティア（工芸館ガイドスタッフ）による鑑賞プログラム「タッチ&トーク」のほか、観覧者の層に応じた様々な教育プログラムを実施する。

ア 企画展及び所蔵作品展に関する講演会やアーティスト・トーク、ギャラリートークの実施

イ 企画展及び所蔵作品展に関する解説ボランティア（工芸館ガイドスタッフ）による鑑賞プログラム「タッチ&トーク」の実施

ウ 小・中学校教職員等を対象とした事前研究会の実施、研修等への協力

エ 各種教育機関からの要請に応じた、児童・生徒に対するギャラリートークや「タッチ&トーク」の実施

オ 夏季の所蔵作品展における児童生徒及び一般来館者を対象とした「セルフガイド」（日本語、英語）の作成・配布、未就学児から小学校低学年までを対象とした鑑賞教室「こどもタッチ&トーク」、子供連れの来館者を対象とした「家族でタッチ&トーク」、親子のための言語活動と作品理解の共有を目的としたワークショップの実施

カ 一般観覧者向けの「鑑賞カード」の配布

(京都国立近代美術館)

幅広い層の人々への美術鑑賞に対する関心を高めることを重点目標に置き、展覧会に関連した講演会や解説を開催する。また、美術館を活用した各種団体の自発的な学習・研究等を積極的に支援するとともに、美術鑑賞教育の核としての現場指導者の質の向上を目指す。さらに、障害者や若年層をはじめとする利用者層にもアプローチしながら、美術館での体験の枠組みを広げる取組を進める。

ア 小・中・高等学校及び大学の授業や課外活動との積極的な連携

イ 教員の美術館利用プログラムに対する支援

ウ 学校、各種団体からの要請による解説の実施

エ 企画展に関連した講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施

オ 京都市教育委員会等との共催による小・中学校教員を対象とした授業実践力向上講座の開催

カ 誰もが美術館や美術作品を楽しめるユニバーサルな鑑賞プログラムの構築及びイベントの実施

(国立映画アーカイブ)

映画及び映画保存に関して、幅広い層に合わせたレベルと内容の教育普及プログラムを実施する。

ア 上映会・展覧会におけるトークイベント等の実施

イ 新たに復元した映画の上映と講演会の実施

ウ 研究員の解説や弁士の公演等も交えながら映画の多様性に触れる機会を提供する「こども映画館 2019年の夏休み★(仮称)」の実施 [再掲]

エ チェコセンター東京等との共催でヴィシエグラード・グループ各国の多様なアニメーションなど短篇作品の鑑賞機会を提供する「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」の実施

オ 一般社団法人コミュニティシネマセンターとの共催による巡回上映事業「Fシネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！(仮称)」の実施 [再掲]

カ 相模原市及び研究開発法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づく上映会及び施設見学並びに相模原市内の小・中学生を対象とした上映会等の実施

キ 映画アーカイブの活動を支える映写技術の学び直しの場を提供する「NFAJ 35ミリフィルム映写ワークショップ」の実施

ク 次世代の若手監督・スタッフの育成を支援する教育普及企画として、若手監督のトークイベントと作品上映を組み合わせた「**Rising Filmmakers Project**」の実施

(国立西洋美術館)

より多くの人々に美術と美術館に親んでもらえるように、所蔵作品展と企画展の双方に関連して多様なプログラムを実施する。また、学校、家族、障害のある人といった特定の対象に向けたプログラムを提供するなど、社会的包摂も視野に入れて活動するよう努める。

- ア 「スクール・ギャラリートーク」（小・中・高等学校の団体対象）の実施
- イ 「美術トーク」（日曜日及び第1、第3、第5土曜日）及び「建築ツアー」（日曜日及び第2、第4水曜日）の実施
- ウ ファミリー・プログラム「どうようびじゅつ」の実施
- エ 『西洋版画を視る』熟覧プログラム（大学院生・教員対象）の実施
- オ クリスマス・プログラム（トーク、クリスマスキャロル・コンサート等）の実施
- カ 企画展に関連した講演会とスライドトークの実施
- キ 企画展に関連した「先生のための鑑賞プログラム（解説&無料観覧）」の実施
- ク 障害のある人を対象とする特別プログラムの実施

#### （国立国際美術館）

幅広い層の人々が美術館に親しみ、美術鑑賞の機会を身近に感じ、それぞれの人に応じた学びを得られるよう、企画展ごとに関連講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等を開催するとともに、未就学児やその家族などが参加できる各種プログラムを実施する。また、各校種・研究団体と連携し、小・中・高等学校・特別支援学校へのより一層の鑑賞教育の充実を促進する。

- ア 企画展に関連した講演会・対談・アーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施
- イ 小・中学生向け作品鑑賞ツアー「こどもびじゅつあー」の実施
- ウ 未就学児とその家族向けツアーの実施
- エ ファミリー・プログラム「なつやすみびじゅつあー」、「びじゅつあーすぺしゃる」の実施
- オ 子供から大人までを対象にした現代美術作家等によるワークショップの実施
- カ 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」の配布
- キ 「アクティヴィティ・ブック」の配布
- ク 教職員向け美術館活用促進印刷物「スクール・プログラムガイド」の作成
- ケ 小・中・高等学校・特別支援学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのオリエンテーション及びギャラリートークの実施
- コ 「美術館と学校がつながる学習プログラム開発研究会（仮称）」（小・中・高等学校・特別支援学校の教職員対象）の実施
- サ 美術館活用及び鑑賞教育に関する教員研修の実施
- シ 大阪市教育センター、大阪府教育センター等との連携による研修会の実施

#### （国立新美術館）

来館者の作品鑑賞の充実を目的として、展覧会ごとに講演会やアーティスト・トークを実施するほか、より多くの人々に美術に親しむ機会を提供するためのプログラムを幅広い層を対象に実施する。

- ア 展覧会にあわせた講演会及びアーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施
- イ 子供から大人まで幅広い層を対象にした作家等によるワークショップ等の実施
- ウ 美術団体等との連携による講演会、鑑賞会及びギャラリートーク等の実施
- エ 鑑賞ガイドの作成及び配布
- オ 児童、生徒、学生を対象とした鑑賞ガイダンスの実施

カ コンサートの実施

キ 美術館の建築とその機能・特徴に親しむ建築ツアーの開催

② ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業の充実を図る。

(東京国立近代美術館)

(本館)

ア 本館ガイドスタッフ(ボランティア)による、所蔵作品展の所蔵作品ガイド、「ハイライト・ツアー」、「春まつりトークラリー」、「フライデー・ナイトトーク」及び児童向けの鑑賞プログラム「こども美術館」、「おやこでトーク」を実施する。

イ 本館ガイドスタッフによる小・中学生の受入れ(スクール・プログラム)等、鑑賞教育の充実を図る。

ウ 外部講師又は研究員によるフォローアップ研修を開催して、ガイドスタッフの意欲とファシリテーション・スキルの向上を図る。

エ 「Let's Talk Art」のための英語ファシリテーターのフォローアップ研修を継続的に行う。

オ 友の会、賛助会については、会員証提示による優待割引を実施するとともに、ミュージアムショップなどでの割引を実施する。

(工芸館)

ア 工芸館ガイドスタッフ(ボランティア)による、一般観覧者向けの鑑賞プログラム「タッチ&トーク」及び夏季の児童向けの鑑賞教室「こどもタッチ&トーク」を実施する。

イ 工芸館ガイドスタッフによる、外国人及び国際的な文化交流に関心を持つ日本人を対象とした英語による鑑賞教室「英語タッチ&トーク」を実施する。

ウ 研究員等によるフォローアップ研修を開催して、ガイドスタッフの意欲とトーク技術の向上を図る。

エ 友の会、賛助会については、会員証提示による優待割引を実施するとともに、ミュージアムショップなどでの割引を実施する。

(京都国立近代美術館)

ア 京都市との連携により、京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」修了者の中からボランティアを受け入れ、来館者へのアンケート調査等に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力する。

イ 友の会については、各展覧会の解説会を実施するとともに、京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館、奈良国立博物館及び国立民族学博物館と連携して会員証提示による優待割引を実施する。

(国立西洋美術館)

ア ボランティア・スタッフによる、小・中・高等学校生の団体を対象とした所蔵作品展でのスクール・ギャラリートーク、ファミリープログラム、週末の一般向け「美術トーク」及び「建築ツアー」を実施する。

- イ ファミリープログラム「どようびじゅつ」の共同企画及びボランティア企画による「ボランティアアート・プログラム」の実施を通して、活動への意欲と積極性を促す。
- ウ ボランティアの育成を目的として、プログラム遂行のためのスキルアップ研修及び広く美術に関する知識を学ぶための研修を実施する。
- エ 2019年度春に第5期のボランティアを新規に募集し、次年度からの活動に向けた養成研修を実施する。

(国立国際美術館)

- ア 学生ボランティアを受け入れ、美術資料の整理、ワークショップ等の補助業務を通じて、美術館活動に参画する機会と実務経験を積む機会を提供する。
- イ 友の会については、講演会等の事前予約枠を設けるとともに、京都国立博物館、奈良国立博物館、国立民族学博物館及び大阪市立東洋陶磁美術館と連携して会員証提示による優待割引を実施する。

(国立新美術館)

- ア 国立新美術館サポート・スタッフとして学生ボランティアを受け入れ、美術館における業務の補助を通じた実務経験の機会を提供する。
- イ 教育普及事業等への企業協賛獲得に積極的に取り組む。
- ウ 近隣関係施設と連携・協力し、「六本木アート・トライアングル」を構成して、展覧会スケジュールが入ったマップの配布や、美術の普及につながる活動を行う。

**(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信**

国立美術館における美術作品の収集・展示・保管、教育普及、情報の収集・提供その他の美術館活動の推進を図るため、別表2のとおり各館において調査研究を計画的に実施し、その成果を美術館活動の充実に生かす。実施に当たっては、国内外の博物館・美術館及び大学等の機関との連携を図る。また、募集情報等の共有を図り、科学研究費補助金等の研究助成金の申請や外部資金の獲得を促進する。

また、国立映画アーカイブにおいては、映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究を別表2のとおり計画的に実施する。

さらに、館外の学術雑誌、学会等に掲載・発表するとともに、館の広報誌、研究紀要、図録を発行するなど、調査研究成果の多様な発信に努める。

(東京国立近代美術館)

展覧会に伴う図録・小冊子、研究紀要、東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』及び『東京国立近代美術館活動報告』等の刊行物を発行する。

(本館)

小・中学生向け鑑賞ツール「セルフガイド」〔再掲〕、未就学児向け鑑賞ツール「セルフガイド・プチ」を発行する。

〈工芸館〉

- ア 夏季の所蔵作品展「こどもからの挑戦状（仮称）」において、児童生徒及び一般来館者を対象とした解説パンフレット「セルフガイド」（日本語、英語）を発行する〔再掲〕。
- イ 一般来館者向けとして作品の情報と鑑賞のヒントを解説文と写真で紹介する「鑑賞カード」を発行する〔再掲〕。

（京都国立近代美術館）

- ア 展覧会に伴う図録、京都国立近代美術館ニュース『見る』、『京都国立近代美術館活動報告』及び研究論集『CROSS SECTIONS』等の刊行物を発行する。
- イ コレクション・ギャラリーでの展示替え毎に、展示の概説をホームページ上に公開する。

（国立映画アーカイブ）

- ア 上映会や展覧会に伴い『NFAJ ニュースレター』等の刊行物を発行する。
- イ 上映会や展覧会では、上映作品や出品リスト情報をホームページ上に公開する。
- ウ セミナーの再録や、ニュースレターに掲載した記事の一部を、ホームページ上に公開する。

（国立西洋美術館）

- ア 研究紀要、展覧会に伴う図録、『国立西洋美術館ニュースZEPHYROS』、『国立西洋美術館報』等の刊行物を発行する。
- イ 展覧会ごとに小・中学生向け解説パンフレット「ジュニア・パスポート」を発行する。

（国立国際美術館）

- ア 展覧会に伴う図録、『国立国際美術館ニュース』、『国立国際美術館活動報告』等の刊行物を発行する。
- イ 教職員向け美術館活用促進印刷物「スクール・プログラムガイド」を発行する〔再掲〕。

（国立新美術館）

- ア 研究紀要『NACT Review』、展覧会に伴う図録、『国立新美術館 活動報告』等の刊行物を発行する。
- イ 鑑賞ガイドを発行する。

（6）快適な観覧環境等の提供

- ① 各館において、動線の改善や鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮するための工夫を行う。  
また、多言語化を含め、より良い鑑賞環境を提供するための様々な方途について検討する。

なお、アンケート調査等の結果を踏まえ、快適な観覧環境等の提供に努める。

#### (国立美術館全体)

- ア 所蔵作品展において、キャプション・解説パネル・出品リストや音声ガイド等の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を実施する。
- イ 企画展において、キャプション・解説パネル・出品リストや音声ガイド等の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を実施する。
- ウ 館内において無料Wi-Fiを提供する。
- エ 一般向けに国立美術館の紹介パンフレット（日本語、英語）を制作し、ホームページ上でも公開することで、法人の認知度の向上及び集客に努める。

#### (東京国立近代美術館)

##### 〈本館〉

- ア 「美術館の春まつり」など、歳時にあわせ地域と連携する全館イベントを企画・実施し、館の魅力を上げるとともに来館者層の拡大を図る。
- イ 「MOMATサマーフェス」を中心に、夜間開館周知のためのイベント等を都内の美術館・博物館等と連携して実施する。
- ウ 国外の主要メディアに館を紹介するプレスリリースを配信し、外国人観光客の来館を促進する。
- エ 来館者サービス充実に向け、常設の電子アンケート（日本語、英語）及び非来館者調査を活用する。
- オ 年間の展覧会カレンダーをホームページ等で早期に公開し、周知を図る。
- カ 館紹介パンフレット（日本語、英語）配布、ホームページの充実などにより、更なる館の周知に努める。
- キ 所蔵作品展において小・中学生向けの「セルフガイド」を配布する。
- ク エントランスホールを中心に、デジタルサイネージ等を活用し、館内共有部分の環境整備を継続的に進める。
- ケ キャプション・解説パネル・出品リスト等の視認性の向上について必要な改善を行う。

##### 〈工芸館〉

- ア 所蔵作品展開催時に設置している各作品の注目ポイントを写真と文章で明示した「鑑賞カード」の充実を図り〔再掲〕、来館者が興味深く鑑賞できるよう情報提供に努める。
- イ 夏季の所蔵作品展「こどもからの挑戦状（仮称）」において、児童生徒及び一般来館者を対象とした解説パンフレット「セルフガイド」（日本語、英語）を発行する〔再掲〕。

#### (京都国立近代美術館)

- ア 館概要（日本語、英語、独語、仏語、西語、伊語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 年間の展覧会案内（日本語、英語）を配布する。

- ウ 小・中学生に対してガイドブックを配布する。
- エ 京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館と共同して、年間展覧会案内を配布し、展覧会案内を利用したスタンプラリーを実施する。
- オ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。

#### (国立映画アーカイブ)

- ア 上映会・展覧会の年間カレンダー（日本語、英語）を作成・配布し、ホームページ上でも提示する。
- イ パンフレット（日本語、英語）を作成・配布し、ホームページ上にも掲載し、更なる周知に努める。
- ウ 長瀬記念ホール OZU での上映前に、開催中及び次回の上映会・展覧会についての広報と鑑賞マナーのアナウンスを映写する。
- エ 上映会の開催に際し、上映作品のリストを兼ねた広報物を作成・配布し、ホームページ上でも提示する。
- オ 外国人の鑑賞を促進するため、多言語による上映環境の整備に向けて検討を行う。
- カ 視覚・聴覚障害者のためのバリアフリー上映を実施する。

#### (国立西洋美術館)

- ア 国立西洋美術館ブリーフガイド（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 企画展において小・中学生向け解説「ジュニア・パスポート」を配布する。
- ウ 国立西洋美術館の概要、本館に見られるル・コルビュジエの建築的特徴、同時に世界遺産に登録された7か国17資産の建物等を紹介するパンフレット（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- エ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。
- オ 上野文化の杜実行委員会と協力して、所蔵作品や本館の特徴を説明するためのWi-Fiを利用したコンテンツの制作を進める。

#### (国立国際美術館)

- ア 館概要リーフレット（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 展覧会において、フロアガイド（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- ウ 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」（所蔵作品展作品鑑賞のためのワークシート）、「アクティビティ・ブック」（作品鑑賞のためのアクティビティを提案している冊子）を配布する。
- エ 展覧会スケジュール（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。

#### (国立新美術館)

- ア 館フロアガイド（日本語、英語、独語、仏語、西語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 展覧会カレンダー（日本語、英語）を作成・配布する。
- ウ 展覧会において鑑賞ガイドを作成・配布する。

- エ 文字を大きくし、見やすくした「大きな文字の利用案内」を配布する。
- オ タブレットを介したテレビ電話形式による同時通訳システム（SMILE CALL）を導入し、海外からの来館者対応を円滑にする。
- カ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。
- キ QRコードを用いて、展覧会場の解説の多言語化情報（日本語、英語、中国語、韓国語）を提供する。

- ② 入館料及び開館時間の弾力化等により、入館者サービスの向上を図るため、次のとおり実施する。

（国立美術館全体）

- ア 若年層の鑑賞機会の拡大を図るため、高校生以下及び18歳未満の展覧会観覧料無料化を実施する。また、大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」の学生向けウェブサイトの充実や普及広報等に努め、利用者増加及び加入校増加を目指す。
- イ 65歳以上の来館者について所蔵作品展の無料化を実施する。
- ウ 所蔵作品展及び企画展において、原則金曜日及び土曜日の開館時間を午後8時まで延長する。
- エ 展覧会の混雑状況等を考慮し、開館日・開館時間等について柔軟な対応を行う。
- オ 「国際博物館の日」を記念して、各館において以下の事業を実施する。
  - （ア）東京国立近代美術館、京都国立近代美術館及び国立西洋美術館では5月18日（土）を所蔵作品展の無料観覧日とする。
  - （イ）国立映画アーカイブでは、5月18日（土）を展覧会の無料観覧日とする。
  - （ウ）国立新美術館では、展覧会の実施形態に応じ、企画展及び公募展観覧料の無料化や割引を実施する。
- カ 東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ及び国立西洋美術館は、東京都が実施する外国人旅行者への観光事業「ウェルカムカード」に参加し、外国人旅行者に対して所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料の割引を実施する。
- キ 東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館及び国立新美術館は、共通入館券事業「ぐるっとパス2019」に参加し、観覧料の割引を実施する。
- ク 京都国立近代美術館及び国立国際美術館は、共通入館券事業「ミュージアムぐるっとパス・関西2019」に参加し、観覧料の割引を実施する。
- ケ 東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ及び国立西洋美術館は、東京都が実施する青少年育成事業「家族ふれあいの日」に参加し、所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料の割引を実施する。

（東京国立近代美術館）

- ア 国民に広く美術作品等に親しんでもらうため、所蔵作品展を観覧できるパスポート観覧券の販売促進のための広報等に努める。
- イ 千代田区、東京メトロ、JAF、日本私立学校振興・共済事業団、学士会等と提携し、会員証等の提示による優待割引を実施、当該広報誌による展覧会広報とともに観覧料

の低廉化を行う。

- ウ 東京刊行情報センター、東京シティアイ等と連携・協力し、外国人観光客及び東京への観光者に美術館の基本情報及び展覧会情報を提供する。
- エ クレジットカード、電子マネー（Suica 及び PASMO 等）及び QR コード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を行う。

（京都国立近代美術館）

- ア クレジットカードによる観覧券の窓口販売を行う。
- イ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による優待割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。
- ウ 京都国立博物館、京都文化博物館、京都市美術館との観覧料の相互割引を実施する。

（国立映画アーカイブ）

- ア 長瀬記念ホール OZU と小ホールの上映時間の重複を極力避けた柔軟なタイムテーブルの編成を、1日3回上映も含めて検討し、来館者の鑑賞機会の増加に努める。
- イ 上映会鑑賞希望者の利便性を高めるため、企画上映において整理券を配布する。
- ウ 社会人や遠方に住む上映会鑑賞希望者の利便性を高めるため、前売券を販売する。
- エ インターネット購入を含めた上映会観覧券購入のための新システムの導入について検討を行う。
- オ 上映会の鑑賞者に対し、当日の展覧会観覧料の割引を行う。
- カ 展覧会において、電子マネー（Suica 及び PASMO）及び QR コード決済サービス（訪日外国人向け）等による観覧券の窓口販売を行う。

（国立西洋美術館）

- ア クレジットカード及び電子マネー（Suica及びPASMO等）による観覧券の窓口販売を行う。
- イ 「国際博物館の日」に上野地区の諸機関と連携してイベントを行う。
- ウ 上野地区の文化施設に一定価格で入場できる「UENO WELCOME PASSPORT—上野地区文化施設共通入場券—」（期間限定、年2回発行予定）を作成し、各文化施設の相互連携により、商業施設も含めた観光客の誘致と回遊性の向上を図り、来館者サービスの充実と来館者の増加を目指す。
- エ 第2・第4土曜日及び毎週金・土曜日の夜間開館時の所蔵作品展観覧料を無料とする。
- オ 夜間開館時において、展示と関連した他の芸術分野のイベント等を月一回程度実施することにより、夜間開館時及び新たな層の誘客を図る。

（国立国際美術館）

- ア クレジットカード及び QR コード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を行う。
- イ 「大阪周遊パス 2019」、大阪市高速電気軌道株式会社（大阪メトロ）「エンジョイエコカード」等に参加し、観覧料の低廉化を図る。

- ウ 近隣のホテル等と提携し、展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。
- エ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。
- オ 館全体を使用した所蔵作品展を行うにあたり、6月2日（土）を全館無料観覧日とし、国民が広く所蔵作品等に親しむ機会を提供する。

(国立新美術館)

- ア 「六本木アート・トライアングル」を構成する近隣の美術館と観覧料の相互割引を行う。
  - イ 美術団体等と協議の上、企画展及び公募展の観覧料の相互割引の実施を推進する。
  - ウ 自主企画展における公募展との相互割引に関して、65歳以上の観覧者については、通常の割引後観覧料に代えて、大学生団体料金を試行的に適用し、高齢者の観覧料の低廉化を図る。
  - エ 同時期に開催する企画展の相互割引を実施する。
  - オ 共催者と協議の上、共催展の高校生無料観覧日を設定する。
  - カ クレジットカード、電子マネー（Suica及びPASMO等）及びQRコード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を行う。
  - キ 小学生以下の子供を対象とした託児サービスを通年で実施する。
- ③ 利用者のニーズを踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等の充実を図る。
- ア 東京国立近代美術館本館では、展覧会にあわせ、レストランと連携、協力しコラボレーションメニューの開発、席の拡充や営業時間の延長など来館者サービスの向上を図る。また、ミュージアムショップでは、オリジナルグッズを販売する。
  - イ 京都国立近代美術館では、カフェと連携、協力し、展覧会にあわせたテーマランチやテーマデザートを提供を行う。また、ミュージアムショップでは、新しいオリジナルグッズを製作し、展覧会にあわせた関連書籍やグッズをより充実させる。
  - ウ 国立西洋美術館では、レストランにおいて展覧会に関連したメニューの提供等を推進するとともに、『国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS』やホームページで広報する。また、来館者サービスの向上を図るため、リニューアルしたミュージアムショップにふさわしいオリジナルグッズの開発、販売方法等を引き続き検討する。また、夜間開館時の館内レストランの営業時間を、展覧会終了の1時間後まで延長する。
  - エ 国立国際美術館では、レストランにおいて展覧会に関連したメニューの提供等を行うとともに、ミュージアムショップと連携・協力してホームページに掲載されている商品情報等を充実させる。
  - オ 国立新美術館では、ミュージアムショップと連携し、オリジナルグッズの開発やショップ内のギャラリーの展示に対する企画協力を行い、美術館の魅力の創出に努める。また、レストランと協力し、展覧会に関連した特別メニューの提供など、利用者へのサービス向上を図る。

## 2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

### (1) 作品の収集

- ①-1 各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。作品の収集に当たっては、その美術史的価値や意義等についての外部有識者の意見等を踏まえ、適切な購入を図る。また、収集活動を適時適切に行うために、美術作品の動向に関する情報の入手と機動性の向上に努める。

あわせて、購入した美術作品に関する情報をホームページで公開する。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

近代日本美術の体系的コレクションの構築を図りつつ、近代日本美術に影響を与えた海外作家の作品、及び日本と海外の同時代美術作品の収集を次の点について留意しながら積極的に行う。

- ア 1970年代以降の日本と海外の作品の収集
- イ 日本の美術に影響を与えた海外作家の作品の収集
- ウ 1900～1940年代の日本画作品の収集

〈工芸館〉

次の点について留意しつつ、近代日本における工芸の体系的コレクションの充実を図る。

- ア 日本工芸の近代化を示す作品の補充
- イ 戦後から現代に至る伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集
- ウ 近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集

(京都国立近代美術館)

ア 我が国の近・現代において生み出された美術、工芸、建築、デザイン、写真等で、主として美術・工芸作品について、近・現代日本美術史の骨格を形成する代表作及び作家の各時期において重要な位置を占める記念的作品、我が国の美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作を積極的に収集するとともに、優れた写真作品の収集も継続して行う。また、海外作品の充実を図るため、前衛的傾向を示す海外の美術作品についても、継続して収集を目指す。

イ 京都に設置されている立地条件から、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した所蔵作品の充実を継続して図る。

(国立西洋美術館)

- ア 15～20世紀ヨーロッパ絵画等の収集に努める。
- イ ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心にヨーロッパ版画のコレクションを充実させる。
- ウ 国内に残る旧松方コレクション作品の情報収集を継続する。

(国立国際美術館)

- ア 1945年以降の日本の現代美術作品の系統的収集を継続する。
- イ 国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集を継続する。

①-2 寄贈・寄託作品の受入れを推進するとともに、所蔵作品展等における積極的な活用を図る。

①-3 法人本部が管理する美術作品購入費については、緊急を要する美術作品や通常予算では購入できない金額の美術作品を優先的に購入することとする。購入作品の選定に当たっては法人全体で協議する。

なお、作品収集に関しては、学芸課長会議等で情報交換や連絡調整を行う。

## (2) 所蔵作品の保管・管理

保管施設の狭隘・老朽化への対応に取り組む。

2018年度に策定した保管施設の狭隘・老朽化対応方針を踏まえ、抜本的な改善を図るため、各館で横断的に活用が可能な形態や方法について、既存の施設との連携を図りながら、地元自治体や関係機関の協力を得られるよう調査及び検討を進める。

また、新たな保管施設が整備されるまでの間、特に狭隘化が進んでいる東京国立近代美術館及び京都国立近代美術館の所蔵作品の一部を外部の民間保管施設に保管することで、美術作品の適正な保管と保全を図る。

## (3) 所蔵作品等の修理、修復

所蔵作品等の保存状況について、各館の連携・調整を行い、特に緊急に処置を必要とする作品について重点的に修理・修復を行う。

ア 東京国立近代美術館本館では、作品貸与時の対応も含め、保存科学と修復に関する外部の専門家との定常的な連携を進める。特に、日本画の屏風等大型作品の修復、作品の安全性・鑑賞性を高める額装の改変などを中心的に進める。

イ 東京国立近代美術館工芸館では、展示や貸出等の活用頻度の高い工芸作品のうち染織と漆工、金工作品の現状保存修復を行う。また、過去の展覧会に出品されたポスターのクリーニング等を行う。さらに、作品収蔵庫の燻蒸・クリーニング及び展示会場のクリーニングを継続して行う。

ウ 京都国立近代美術館では、寄贈により収集したものの、作品保護の観点から展示できない美術作品を中心に保存修復処置を行う。経年劣化による影響の大きい日本画を中心に進め、京都国立近代美術館での展示のみならず、作品貸与の依頼にも応えられるようにする。

エ 国立西洋美術館では、展示や貸出の活用機会の多い近代絵画作品、版画・素描作品等の保存修復処置を行う。近年収蔵した旧松方コレクションや寄贈された彩飾写本についても、整理・調査及び保存修復作業を継続して実施し、速やかに展示活用できる状態にすることに努める。

オ 国立国際美術館では、展示・貸出予定のある作品、新収蔵作品を優先的に、作品の状態を確認し、必要な修復等の処置を施す。

カ 国立新美術館では、保存状態が悪く、そのままでは利用が難しい寄贈資料について、デジタル画像作成を含めた保存修復措置を行う。

#### (4) 所蔵作品の貸与

所蔵作品について、各館においてその保存状況や展示計画を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。

### 3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

#### (1) 国内外の美術館等との連携・協力等

- ① 各館において国内外の研究者を招へいし、展覧会の開催等に合わせ各種講演会・セミナー・シンポジウムを開催する。
  - ア 京都国立近代美術館では、「ドレス・コード?—着る人たちのゲーム」において、ICOM京都大会と連動したイベントを開催し、海外の研究者と研究成果を共有する機会を設ける。
  - イ 国立西洋美術館では、特別展「日本・フィンランド外交関係樹立100周年記念 モダン・ウーマン—フィンランド美術を彩った女性芸術家たち」開催にあわせ、フィンランド国立アテネウム美術館から研究者を招聘したシンポジウムを開催する。

また、ウィルデンスタイン研究所と共催で、デジタル時代におけるカタログ・レゾネの重要性及びそのなかで果たしているアーカイヴ資料の役割を考察するシンポジウムを開催する。
- ② 展覧会等の紹介や企画に関連し、海外の美術館との連携・協力を図る。
  - ア 東京国立近代美術館では、前年度に開催した「アジアにめざめたら：アートが変わる、世界が変わる 1960-1990年代」を韓国国立近現代美術館（韓国・ソウル、2019年2月～5月）及びナショナル・ギャラリー・オブ・シンガポール（シンガポール、2019年6月～9月）へ巡回する。

また「出品協力」として「ARS NIPPONICA: Masters of Japanese Paintings in the Early 20th Century」（トレント・ロヴェレート近現代美術館、イタリア、2019年9月～2020年1月）に24点を貸与する。
  - イ 国立西洋美術館では、東京国立近代美術館工芸館及び京都国立近代美術館等の出品協力のもと、日本ギリシャ外交関係樹立120周年を記念して、「明治の工芸／平成の工芸—150年の時代を超えた日本のわざと装飾の美—（仮称）」（会場：近代ギリシャ文化博物館、2019年10月9日～12月8日（予定））を開催し、将来の展覧会開催時の作品貸与を見据えた、同国との継続的な関係構築を図る。
  - ウ 国立国際美術館では、大館美術館（中国・香港、2020年3月頃（予定））において開催予定のコレクションを活用した展覧会をシンガポール美術館（シンガポール）との3館で共同研究・共同開催する。
  - エ 国立新美術館では、バーゼル美術館と共同企画した「イケムラレイコ 土と星 Our Planet」を再構成し、「新しい海へ」と題して、2019年5月11日から9月1日まで、バーゼル美術館（スイス）において開催する予定。

また、2015年度に開催した「ニッポンのマンガ\*アニメ\*ゲーム」以来、継続して開

催しているマンガやアニメの展覧会の企画・運営のノウハウを生かして、2019年5月23日より大英博物館（イギリス）で開催される「The Citi exhibition Manga マンガ」の開催に向けて協力する。

- ③ 全国の美術館等の運営に対する援助、助言を適時行うとともに、地方巡回展の開催、企画展の共同主催やそれに伴う共同研究等を通じて、関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に取り組む。

## （２）ナショナルセンターとしての人材育成

- ① 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとして、次の事業を行う。

ア 小・中学校の教員や学芸員が、学校や美術館で活用できる鑑賞教育用教材の普及を図る。

イ 各地域の学校と美術館の関係の活性化を図るとともに、子供たちに対する鑑賞教育の充実に資するため、各地域の鑑賞教育や教育普及事業に携わる小・中・高等学校の教員と学芸員等が一堂に会し、グループ討議等を行う「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を、国立美術館の研究員の研究成果と協働により実施する。

あわせて、法人ホームページでの実施概要及び実施報告の掲載を通じ幅広い層への広報に努める。

期間：2019年7月29日（月）～7月30日（火）

会場：国立国際美術館、大阪大学中之島センター

募集人員：80名

ウ イの研修について教員免許更新講習として実施する。

- ②-1 公私立美術館の学芸担当職員を対象としたキュレーター研修を実施し、その専門的知識及び技術の普及向上を図る。

研修希望者の募集に際しては、アンケート調査の結果を踏まえ、前年度と同様に研修を受け入れる国立美術館各館の展覧会概要及び受入れ可能な研修分野の情報を提示し9月に公募を開始する。

- ②-2 美術館活動を担う人材の育成に資するようインターンシップ等の事業を次のとおり実施する。

ア 各館においてインターンシップ制度を実施する。

イ 国立映画アーカイブにおいて、大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を実施する。

ウ 国立映画アーカイブにおいて、若い世代を対象とした鑑賞者教育と、映画保存に関わる人材育成プログラムを、学校や関連団体と連携しつつ実施する。

（ア）映画及び映画保存に関わる人材育成プログラムとして、学生と20代社会人向けの「映画の教室 2019」を実施

（イ）映画保存に関わる人材育成プログラムとして、アーカイブセミナーや映画フィルムの映写と取扱いに関するワークショップを開催

エ 国立西洋美術館において、大学院（東京大学大学院人文社会系研究科）と連携して美

術館運営に関する教育を行う。

オ 国立新美術館において、近隣の政策研究大学院大学との連携の一環として、学生を対象とした展覧会等に関するガイダンスを実施し、良質な芸術作品に触れる鑑賞機会を積極的に提供する。

### (3) 国内外の映画関係団体等との連携等

国立映画アーカイブでは、我が国の映画文化振興の中核的機関として、国内外の映画関係団体等と連携しながら次の取組を実施する。

① 映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収集することを目標に、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失の危険性が高い映画フィルム等及び上映事業や国際交流事業に必要な映画フィルム等の収集を行う。なお、収集にあたっては、自主製作映画等企業の管理下に置かれない映画の収集にも配慮することとし、受贈については、デジタル素材の受入れも視野に入れながら、映画のデジタル化に伴い散逸の危機に瀕しているプリントやフィルム原版の受入れも重点的に実施することとする。映画資料については、日本映画に関わるものを中心に、作品レベルでの網羅性を向上させるとともに、映画史の調査研究に資する幅広い種類の資料の収集を行う。加えて、本年度は特に次の点について留意する。

ア 歴史的に重要な映画作品のデジタル復元を実施する。

イ フィルム、デジタルともにオリジナルフォーマットを優先した収集を行う。

② 可燃性フィルムや大型映画、小型映画などの特殊なフォーマットを含む映画フィルムの検査体制の充実を図り、劣化等に応じた柔軟な処置を施せるよう、フィルムの保管・保存・復元について、情報収集に努めるとともに、映画史的に重要なカラーシステムや、70mmフィルム等大型映画、3D映画等の適切な保存・復元に向けての調査・作業を継続する。映画の復元については、現存する最良の素材をもとに、可能な限りオリジナルの再現を目指したワークフローを実施する。また、映画会社や海外のフィルム・アーカイブと共同で最新のデジタル復元を実施する。また、映画ポスターやシナリオ、プレス資料、図書、雑誌といった映画資料についても保存修復措置を行いながらデジタル化を図る。

③ 国内外の同種機関や映画祭等が開催する上映会・展覧会に対し貸与を通して協力し、保存・復元の成果や、日本映画を中心に充実を図っているコレクションの活用・発信を図る。また、所蔵作品及び関連情報へのアクセスの増大と多様化への効率的な対応を念頭に、フィルム・コレクションのデジタル・ファイル化及び配信等のデジタル・アクセスへの対応を進める。

④ 上映会や展覧会及び教育普及に関わる講演会及びセミナー等を開催する。また、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」（10月27日）に関連した講演会等を開催する。

⑤ 海外において以下の共催上映を実施する。

ア 第33回ボローニャ復元映画祭

期間：2019年6月（予定）  
会場：チネテカ・ディ・ボローニャほか（イタリア・ボローニャ）  
共催：フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ  
イ 第38回ポルデノーネ無声映画祭  
期間：2019年10月（予定）

- ⑥ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）加盟機関及び国内映像関連団体並びに研究機関等と情報交換を図りながら、映画フィルムの保存・修復活動等に携わる機関や団体への協力を行う。
- ⑦ 国内外で実施される各種映画祭や大学等の映画・映像に関する研究会等に協力する。
- ⑧ 「国立映画アーカイブ・大学等連携事業」の一環として、国立美術館キャンパスメンバーズ（東京国立近代美術館及び国立映画アーカイブ利用校）とともに、国立映画アーカイブの所蔵映画フィルムと施設を利用した講義等を実施する。
- ⑨ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」事業に協力し、「国立映画アーカイブ 所蔵映画フィルム検索システム」への接続を通じた所蔵情報の公開を行う。
- ⑩ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会議に研究員等が出席する。
- ⑪ 中期目標期間中の「全国映画資料館録」更新版刊行のため、全国各地で保存されている映画関連資料に関する情報を収集し、映画資料を所蔵する機関との連携を図る。
- ⑫ 近隣関係施設と連携・協力し「東京アート&ライブシティ」を構成して、展覧会や上映企画等を掲載したイベントマップへの参加や、アートによる地域連携活動を行う。

## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 業務運営の取組

業務運営の一層の効率化を進めるため、次のような措置を講ずる。

#### （1）省エネルギー

観覧環境を阻害しない範囲において、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく中長期計画に沿って、エネルギー使用量の削減に努める。

#### （2）共同調達等の推進

共同調達等を推進し、業務の効率化に努める。

### 2 組織体制の見直し

独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層のサービス向上及び組織の機能向上を実現するため、組織・体制の強化に努める。

### 3 契約の点検・見直し

「調達等合理化計画」の策定及び国立美術館契約監視委員会の開催（1回程度）により、随意契約及び一般競争入札について点検、見直しを行う。その結果も踏まえ、一般競争入札及び企画競争・公募による競争性のある契約方式及び契約の包括化を推進する。

### 4 共同調達等の取組の推進

周辺の機関と連携し、次の品目について、共同調達を推進する。

- ア コピー用紙
- イ トイレトペーパー
- ウ 廃棄物処理
- エ トイレ用洗浄、脱臭器具の賃貸借
- オ 電気

### 5 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

また、2019年度においてもこれまでの人件費改革の取組の効果が活きるよう、より一層の組織の見直し等に努める。

### 6 情報通信技術を活用した業務の効率化

法人内の情報システムネットワークの一元化を基盤として、TV会議システム、グループウェア等の活用による効率化を進める。VPNバックアップ回線を増強するなどバックアップ・インフラの増強に努める。

### 7 予算執行の効率化

共同調達や競争入札を推進し、予算の効率的な執行に努める。

## III 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

### 1 自己収入の確保

施設利用等の施設貸出収入や会員制度による会費収入の増加などに取り組み、自己収入の増加を目指す。また、寄附金等外部資金の獲得促進に取り組む。

### 2 保有資産の有効利用・処分

保有する美術館施設等の資産については、外部貸出による講堂等の利用率の向上及び閉館時等におけるエントランスロビー等の活用を図るとともに、保有の目的・必要性について不断の見直しを行い、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

### 3 予算（年度計画の予算）

別紙1のとおり。

### 4 収支計画

別紙2のとおり。

### 5 資金計画

別紙3のとおり。

## IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

### 1 内部統制・ガバナンスの強化

(1) 理事長裁量経費を計上し、理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備する。外部の有識者による運営委員会に対し国立美術館の管理運営に関して諮問を行い、審議結果を運営管理に反映させるなど内部統制の充実を図る。

(2) 国立美術館が安定してその情報コンテンツを国民に提供できるように情報管理の安全性の向上を図るとともに、コンピュータウィルスに関連する情報を職員に周知するなど、情報セキュリティ対策の向上と改善を行う。

また、「国立美術館情報資産安全対策基本方針」、「国立美術館情報セキュリティポリシー」を踏まえ、安全管理のための実施細則の策定を進める。

(3) 内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況等については内部監査、監事監査等において定期的に検証し、必要に応じて見直しを行う。また、業務運営全般については、外部評価委員会及び運営委員会を開催し、指摘内容について理事会等において検討し、組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、「国立美術館外部評価報告書」については法人ホームページで公表する。

### 2 施設・設備に関する計画

(1) 施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

① 2018年度補正予算措置に基づき、東京国立近代美術館工芸館石川移転施設の整備を進める。

② 2016年度に策定した「国立美術館インフラ長寿命化計画（行動計画）」に基づき、「国立美術館インフラ長寿命化計画（個別施設計画）」の策定を進める。

(2) 国立新美術館の用地（未購入の土地）について、施設・設備に関する計画に基づき、予算措置に応じて購入を進める。

### 3 人事に関する計画

#### (1) 方針

① 職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。

- ア 新規採用者研修
- イ 接遇研修
- ウ メンタルヘルスケアに関連する研修
- エ 情報セキュリティ研修
- オ コンプライアンス研修

② 外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。特に研究職職員への研修機会の増大に努める。

#### (2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。また、任期付研究員及びアソシエイトフェロー制度並びに特定有期雇用職員制度のより一層の活用を図る。

### 4 積立金の使途

前中期目標期間の積立金のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、当期に繰り越された経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

また、今中期目標期間の前期までに生じた剰余金のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、中期計画に定める使途に係る経費等に充当する。

### 5 その他

(1) 「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」（平成 25 年 12 月 24 日閣議決定）に基づき、業務運営に関して様々な工夫・努力を行う。

(2) 「工芸館移転の基本的な考え」（平成 28 年 8 月文化庁公表）を踏まえ、東京国立近代美術館工芸館の移転に向けた準備を進める。

## 別紙1

## 予算(年度計画の予算)

## 平成31年度予算

(単位:百万円)

区 分	美術振興事業	ナショナル コレクション 形成・継承事業	ナショナル センター事業	共 通	合 計
収 入					
運営費交付金	2,037	3,635	655	1,065	7,392
展示事業等収入	1,549	3	24	5	1,581
寄附金収入	0	0	0	650	650
施設整備費補助金	0	0	0	1,381	1,381
計	3,586	3,638	679	3,101	11,004
支 出					
運営事業費	3,586	3,638	679	1,070	8,973
管理部門経費	0	0	0	1,070	1,070
うち人件費	0	0	0	424	424
うち一般管理費	0	0	0	646	646
事業部門経費	3,586	3,638	679	0	7,903
うち人件費	476	127	151	0	754
うち美術振興事業費	3,110	0	0	0	3,110
うちナショナルコレクション 形成・継承事業費	0	3,511	0	0	3,511
うちナショナルセンター事業費	0	0	528	0	528
寄附金事業費	0	0	0	650	650
施設整備費	0	0	0	1,381	1,381
計	3,586	3,638	679	3,101	11,004

別紙2  
収支計画

平成31年度収支計画

(単位:百万円)

区 分	美術振興事業	ナショナル コレクション 形成・継承事業	ナショナル センター事業	共 通	合 計
費用の部					
経常経費	3,663	535	484	1,712	6,394
管理部門経費	0	0	0	1,049	1,049
うち人件費	0	0	0	424	424
うち一般管理費	0	0	0	625	625
事業部門経費	3,560	518	459	0	4,537
うち人件費	476	127	151	0	754
うち美術振興事業費	3,084	0	0	0	3,084
うちナショナルコレクション 形成・継承事業費	0	391	0	0	391
うちナショナルセンター事業費	0	0	308	0	308
寄附金事業費	0	0	0	650	650
減価償却費	103	17	25	13	158
収益の部					
経常収益	3,663	535	484	1,712	6,394
運営費交付金収益	2,011	515	435	1,044	4,005
展示事業等の収入	1,549	3	24	5	1,581
寄附金収益	0	0	0	650	650
資産見返運営費交付金戻入	97	16	24	12	149
資産見返寄附金戻入	2	0	0	0	2
資産見返物品受贈額戻入	4	1	1	1	7

別紙3  
資金計画

平成31年度資金計画

(単位:百万円)

区 分	美術振興事業	ナショナル コレクション 形成・継承事業	ナショナル センター事業	共 通	合 計
資金支出	3,586	3,638	679	3,101	11,004
業務活動による支出	3,560	3,630	666	1,699	9,555
投資活動による支出	26	8	13	1,402	1,449
資金収入	3,586	3,638	679	3,101	11,004
業務活動による収入	3,586	3,638	679	1,720	9,623
運営費交付金による収入	2,037	3,635	655	1,065	7,392
展示事業等による収入	1,549	3	24	5	1,581
寄附金収入	0	0	0	650	650
投資活動による収入	0	0	0	1,381	1,381
施設整備費補助金による収入	0	0	0	1,381	1,381

別表1 2019年度 所蔵作品展・企画展 計画

※所蔵作品展の入館者については、各館において、前中期目標期間における年間平均入館者数以上を目標とする。

目標入館者数	全館合計	3,011,500人
	所蔵作品展	766,500人
	企画展	2,154,000人
	NFAJ上映会	75,500人
	NFAJ展覧会	15,500人

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
所蔵 作品展	MOMATコレクション (「美術館の春まつり」, 「解放され行く人間性 女性 アーティストによる作品を中 心に」,「北脇昇:一粒の種 に宇宙を視る」他特集及びコ レクションによる小企画を含 む)	—	5回展示替え	291	184,000	本館所蔵 作品ギャ ラリー
企画展	①福沢一郎展 このどうし ょうもない世界を笑いとばせ ※1	—	3/12(火) ~ 5/26(日)	50	14,000	本館企画 展ギャラ リー
	②高畑勲展—日本のアニメー ションに遺したもの	NHKプロモーション	7/2(火) ~ 10/6(日)	84	130,000	〃
	③窓展(仮称)	公益財団法人 窓研 究所、東京新聞	11/1(金) ~ 2/2(日)	77	35,000	〃
	④鏑木清方(仮称)※2	—	11/1(金) ~ 12/15(日)	(39)	(25,000)	本館所蔵 作品ギャ ラリー
	⑤ピーター・ドイグ展(仮 称)※3	—	2/26(水) ~ 6/14(日)	31	22,000	本館企画 展ギャラ リー
企画展 計				242	201,000	
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					385,000	

※1 通算の開催日数は69日間、目標入館者数は19,000人。

※2 所蔵作品ギャラリーで開催する企画展のため、合計には計上しない。

※3 通算の開催日数は96日間、目標入館者数は69,000人。

〈工芸館〉

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
所蔵 作品展	デザインの(居)場所,こども たちからの挑戦状(仮称), パッション20(仮称)	—	2回展示替え	145	40,500	工芸館
企画展	①イメージコレクター・杉浦 非水展 ※1	—	2/9(土) ~ 4/7(日) 4/10(水) ~ 5/26(日)	49	21,000	本館ギャ ラリー4
	②The 備前一土と炎から生ま れる造形美— ※2	NHK、NHKプロモー ション	2/22(金) ~ 5/6(月・祝)	33	6,000	工芸館
	③竹工芸名品展:ニューヨー クのアビー・コレクション— メトロポリタン美術館所蔵	NHKプロモーション	9/13(金) ~ 12/8(日)	75	20,000	工芸館
企画展 計				157	47,000	
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					87,500	

※1 通算の開催日数は94日間、目標入館者数は40,000人。

※2 通算の開催日数は67日間、目標入館者数は12,000人。

〈本館〉・〈工芸館〉	合計	472,500人
	所蔵作品展	224,500人
	企画展	248,000人

## (京都国立近代美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション展	—	6回展示替え	289	118,000
企画展	①京都の染織 1960年代から 今日まで ※1	京都新聞	3/8 (金) ~ 4/14 (日)	12	4,000
	②京都新聞創刊140年記念 川 勝コレクション 鐘溪窯 陶 工・河井寛次郎	京都新聞	4/26 (金) ~ 6/2 (日)	34	20,000
	③トルコ文化年2019 トルコ 至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美	トルコ共和国大使 館、日本経済新聞社	6/14 (金) ~ 7/28 (日)	39	70,000
	④ドレス・コード?—着る 人たちのゲーム	京都服飾文化研究財 団	8/9 (金) ~ 10/14 (月)	58	40,000
	⑤円山応挙から近代京都画壇 へ	朝日新聞社	11/2 (土) ~ 12/15 (日)	38	81,000
	⑥イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ展 (仮称)	—	1/7 (火) (予定) ~ 2/16 (日)	36	9,000
	⑦チェコ・デザイン100年の旅 ※2	—	3/6 (金) (予定) ~ 4/12 (日) (予定)	22	13,000
企画展計				239	237,000
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					355,000

※1 通算の開催日数は33日間、目標入館者数は10,000人。

※2 通算の開催日数は33日間(予定)、目標入館者数は20,000人。

## (国立映画アーカイブ)

	上映会・展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
上映会	①映画監督 深作欣二	—	4/23 (火) ~ 5/26 (日)	30	15,000	長瀬記念 ホール OZU
	②EUフィルムデーズ2019	駐日欧州連合代表部 及びEU加盟国大使 館・文化機関	5/31 (金) ~ 6/27 (木)	24	10,000	〃
	③逝ける映画人を偲んで2017- 2018	—	6/29 (土) ~ 9/1 (日)	56	16,000	〃
	④第41回びあフィルムフェス ティバル	一般社団法人PFF、 公益財団法人ユニ ジャパン、公益財団 法人川喜多記念映画 文化財団	9/7 (土) ~ 9/21 (土)	13	4,500	長瀬記念 ホール OZU (一 部小ホー ル)
	⑤日澳国交樹立150周年 オーストリア映画・ハンガ リー映画特集 (仮称)	駐日オーストリア大 使館、駐日ハンガ リー大使館	10/10 (木) ~ 10/20 (日)	10	2,500	長瀬記念 ホール OZU
	⑥アメリカ議会図書館 映画コ レクション (仮称)	—	10/31 (木) ~ 11/10 (日)	10	3,500	〃

上映会	⑦外国無声映画特集 (仮称)	—	11/12 (火) ~ 11/17 (日)	6	1,500	〃
	⑧オリンピック記録映画特集 (仮称)	オリンピック文化遺産財団	11/26 (火) ~ 12/22 (日)	24	6,500	〃
	⑨映画監督 河瀬直美 (仮称)	—	12/24 (火) ~ 1/19 (日)	18	3,500	〃
	⑩戦後日本ドキュメンタリー映画再考 (仮称)	—	2/4 (火) ~ 3/8 (日)	42	8,000	〃
	⑪アンコール特集	—	5/10 (金) ~ 5/26 (日)	9	2,000	小ホール
	⑫シネマ・エッセンシャル 2019	—	8/13 (火) ~ 8/25 (日)	12	2,500	〃
上映会 計				254	75,500	
展覧会	①キネマ旬報創刊100年記念映画イラストレーター宮崎祐治の仕事	—	4/23 (火) ~ 8/25 (日)	108	7,000	
	②映画雑誌の秘かな愉しみ (仮称)	—	9/7 (土) ~ 12/1 (日)	68	4,000	
	③日本・ポーランド国交樹立100周年記念 ポーランドの映画ポスター (仮称)	京都国立近代美術館	12/13 (金) ~ 3/8 (日)	69	4,500	
	展覧会 計				245	15,500
上映会 ・ 展覧会 合計					91,000	

(国立西洋美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	西洋美術館コレクション	—	3回展示替え	287	321,500
企画展	①国立西洋美術館開館60周年記念 ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代 ※1	ル・コルビュジエ財団、東京新聞、NHK	2/19 (火) ~ 5/19 (日)	43	85,000
	②国立西洋美術館開館60周年記念 松方コレクション展	読売新聞社、NHK、NHKプロモーション	6/11 (火) ~ 9/23 (月)	93	300,000
	③日本・オーストリア友好150周年記念 ハプスブルク展—600年にわたる帝国コレクションの歴史	ウィーン美術史美術館、TBS、朝日新聞社	10/19 (土) ~ 1/26 (日)	82	185,000
	④ロンドン・ナショナル・ギャラリー展 ※2	ロンドン・ナショナル・ギャラリー、読売新聞社	3/3 (火) ~ 6/14 (日)	26	80,000
企画展 計				244	650,000
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					971,500

※1 通算の開催日数は80日間、目標入館者数は140,000人。

※2 通算の開催日数は92日間、目標入館者数は300,000人。

## (国立国際美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション展	—	3回展示替え	244	102,500
企画展	①クリスチャン・ボルタンス キー—Lifetime ※	朝日新聞社	2/9 (土) ~ 5/6 (月)	32	8,000
	②抽象世界	—	5/25 (土) ~ 8/4 (日)	62	17,000
	③日本・オーストリア外交樹 立150周年記念 ウィーン・モ ダン クリムト、シーレ 世紀 末への道	ウィーン・ミュージ アム、読売新聞社、 読売テレビ	8/27 (火) ~ 12/8 (日)	90	154,000
	④インボッシブル・アーキテ クチャー	—	1/7 (火) ~ 3/15 (日)	60	21,000
	企画展 計			244	200,000
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					302,500

※ 通算の開催日数は76日間、目標入館者数は 18,000人。

## (国立新美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
企画展	①イケムラレイコ 土と星 Our Planet ※1	バーゼル美術館	1/18 (金) ~ 4/1 (月)	1	1,000
	②トルコ文化年2019 トルコ 至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美 ※2	トルコ共和国大使 館、日本経済新聞 社、TBS、BS-TBS	3/20 (水) ~ 5/20 (月)	44	92,000
	③日本・オーストリア外交樹 立150周年記念 ウィーン・モ ダン クリムト、シーレ 世紀 末への道	ウィーン・ミュージ アム、読売新聞社	4/24 (水) ~ 8/5 (月)	91	311,000
	④クリスチャン・ボルタンス キー—Lifetime	朝日新聞社	6/12 (水) ~ 9/2 (月)	72	106,000
	⑤美術と文学：日本現代美術 展 (仮称)	—	8/28 (水) ~ 11/11 (月)	66	21,000
	⑥カルティエ、時の結晶	日本経済新聞社	10/2 (水) ~ 12/16 (月)	66	121,000
	⑦日本・ハンガリー外交関係 開設150周年記念 ハンガリー国立美術館展 (仮 称)	ハンガリー大使館、 ブダペスト国立西洋 美術館、ハンガ リー・ナショナル・ ギャラリー、日本経 済新聞社	12/4 (水) ~ 3/16 (月)	78	115,000
	⑧DOMANI・明日展2020 日本 博スペシャル (仮称)	文化庁	1/11 (土) ~ 2/16 (日)	32	15,000
	⑨時空を超える日本のアート —古典×現代2020 (仮称) ※3	朝日新聞社、國華社	3/11 (水) ~ 6/1 (月)	18	37,000
企画展 計				468	819,000

※1 通算の開催日数は64日間、目標入館者数は20,000人。

※2 通算の開催日数は55日間、目標入館者数は115,000人。

※3 通算の開催日数は72日間、目標入館者数は147,000人。

別表2 各館の2019年度調査研究

※調査研究は以下の目的に沿って実施する。

- ア 美術作品の収集・展示・保管に関する調査研究
- イ 教育普及活動のための調査研究
- ウ 情報の収集・提供のための調査研究
- エ 映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究
- オ その他の美術館活動のための調査研究

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
福沢一郎と戦前の前衛美術	富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館、(財)福沢一郎記念美術財団	ア
高畑勲と日本のアニメーション映画草創期	三鷹の森ジブリ美術館、叶精二(映像研究家)	ア
美術と建築の両分野から見た窓	一般財団法人 窓研究所	ア
鍋木清方	—	ア
ピーター・ドイグと90年代以降の絵画動向	ピーター・ドイグ	ア
2000年代の建築における公共性	隈研吾建築都市設計事務所	ア
美術における眠りと夢	独国立美術館全館	ア
幕末から昭和初期における女性イメージの調査研究—エロ・グロ・ナンセンスの視点から	大阪歴史博物館	ア
「MOMATコレクション」	—	ア
「MOMATコレクション 特集：美術館の春まつり」	—	ア
「コレクションによる小企画 解放され行く人間性 女性アーティストによる作品を中心に」	—	ア
「コレクションによる小企画 北脇昇：一粒の種に宇宙を視る」	—	ア
ソル・ルウィットのウォール・ドローイング	—	ア
近代から現代までの日本の彫刻と立体造形	熊本市現代美術館	ア
デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較	西川茂(写真家)	ア
児童生徒を対象とする所蔵作品の鑑賞教育の推進	東京都図画工作研究会、東京都中学校美術研究会、東京都高校美術工芸研究会	イ
国立美術館の公開情報情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイ・システムの開発、並びに国立国会図書館サーチ(NDL Search)及び文化庁文化遺産オンラインとの連携の継続維持	—	ウ
アート・ディスカバリー・グループ目録(Art Discovery Group Catalogue)への参加可能性の検討	—	ウ
所蔵作品に関する歴史的情報等の公開データの拡充(独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムでの公開を目標に)	—	ウ
エントランスホール等共用部の環境整備	西澤徹夫建築事務所	エ

美術館非来館者層に関する動向調査をもとにした分析と広報計画の策定	—	エ
戦後日本の前衛美術のクロス・レファレンス的研究 1945-1955	五十殿利治（筑波大学）、西澤晴美（神奈川県立近代美術館）	ア
美術館の所蔵作品を活用した探究的な鑑賞教育プログラムの開発	科学研究費補助金、4年目	イ
大正期から昭和期における「皇室映画」の研究活用に向けた基礎調査	科学研究費補助金、2年目	ア

〈工芸館〉

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
杉浦非水と近代の図案	愛媛県美術館	ア
備前焼の歴史と近・現代の陶芸家による表現	益子陶芸美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館、MIHO MUSEUM、兵庫陶芸美術館、岡山県立美術館、愛知県陶磁美術館	ア
グラフィックデザインとプロダクトデザインの歴史と作品	—	ア、イ
近・現代の竹工芸の歴史と展開	メトロポリタン美術館、大分県立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館	ア
近・現代工芸の歴史と展開	川越市美術館、身延町なかとみ現代工芸美術館	ア、イ
近・現代漆芸の歴史と作品	石川県九谷美術館	ア、イ
近・現代陶磁の歴史と作品	石川県七尾美術館	ア、イ
近・現代工芸（漆工・木工・竹工）の歴史と作品	石川県立美術館	ア、イ
近代における工芸の歴史と展開	武蔵野美術大学	ア、イ
児童生徒成果物（『図鑑カード』）と各発達段階の検証	—	ア、イ
児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	東京都図画工作研究会	イ
工芸館石川移転に伴う環境整備	石川県、金沢市	ア、オ
工芸館石川移転後の現工芸館建物利用計画の検討	—	ア、オ

（京都国立近代美術館）

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
京都の染織	染・清流館	ア
河井寛次郎	河井寛次郎記念館	ア
トルコの美術工芸と文化史	国立新美術館	ア
ファッションと美術・マンガ・映画等における表象	京都服飾文化研究財団	ア
円山・四条派の系譜	東京藝術大学大学美術館	ア
ニーノ・カルーン	ファエンツァ国際陶芸美術館	ア

チェコ・デザイン	世田谷美術館、神奈川県立近代美術館、岡崎市美術博物館、富山県美術館	ア
児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	京都市図画工作教育研究会	イ
ユニバーサルな美術館体験プログラムに関する調査研究	京都教育大学、京都市立芸術大学、京都府立盲学校等	イ、オ
視覚障害者に向けた触察鑑賞ツールに関する調査研究	京都教育大学、国立民族学博物館	イ、オ

(国立映画アーカイブ)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
映画の保存と活用	—	ア
映画監督 深作欣二の映画	—	ア
ヨーロッパ諸国の映画	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関	ア
近年逝去した映画人にかかわる映画	—	ア
日本の自主映画	PFFパートナーズ、公益財団法人ユニジャパン	ア
オーストリア映画及びハンガリー映画	—	ア
アメリカ議会図書館の所蔵映画	アメリカ議会図書館	ア
欧州を中心とする無声映画	—	ア
オリンピック記録映画の歴史	オリンピック文化遺産財団	ア
戦後日本のドキュメンタリー映画	—	ア
映画監督 河瀬直美の映画	—	ア
映画イラストレーター宮崎祐治	—	ア
日本の映画雑誌の歴史	—	ア
ポーランドの映画ポスター文化	京都国立近代美術館	ア
映画資料の館外における展示	—	ア
国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) 会員、その他同種機関、現像所等からの情報に基づく、未発見の日本映画フィルムの所在調査	FIAF会員、国内外の同種機関、現像所	ア
可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・変換・登録、アナログ及びデジタル技術を活用した復元、及び映写	FIAF会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、現像所等	ア、エ
映画におけるデジタル保存と活用	FIAF会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、IT関連研究教育機関、映画製作会社、映画関連団体、放送局、映像機器メーカー、現像所、IT関連会社等	エ
映画の収集のための原版の所在並びに権利帰属等の情報収集と調査	映画製作会社等諸団体	ア
映画資料を整理するとともに、その画像をデジタル化し、活用することを目的とする事業	—	ウ
東京を描いた文化・記録映画とホームムービー	東京国際フォーラム	ア

こどもを対象にした映画鑑賞プログラム	—	イ
社会人を対象にした映画教室プログラム	—	イ
映写技術・映画復元をテーマにした教育プログラム	—	イ
映画に関わる若手クリエイターの育成支援プログラム	—	イ

(国立西洋美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
ル・コルビュジエとピュリスム	ル・コルビュジエ財団	ア
旧松方コレクションを含む松方コレクション全体	—	ア
フィンランド美術	アテネウム美術館	ア
ハプスブルク家のコレクションニズム	ウィーン美術史美術館	ア
イギリスにおけるヨーロッパ美術のコレクション形成	ロンドン、ナショナル・ギャラリー	ア
中世末期から20世紀初頭の西洋美術	—	ア
所蔵版画作品	—	ア
美術館教育	—	イ
ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計	ル・コルビュジエ財団	ア
在外松方コレクション資料の学術調査と美術品来歴研究	科学研究費補助金、4年目	ア
近現代日本における人形とジェンダー	科学研究費補助金、3年目	ア

(国立国際美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
所蔵作品	—	ア
日本の現代美術の動向	—	ア
海外の現代美術の動向	—	ア
抽象作品について	—	ア
ボルタンスキーについて	国立新美術館、長崎県美術館	ア
ウィーン世紀末の美術とデザイン	ウィーン・ミュージアム	ア
20世紀以降の先鋭的建築設計に関する研究	東北大学五十嵐太郎研究室、埼玉県立近代美術館、広島市現代美術館、新潟市美術館	ア
久保田成子及び1970年代以後のビデオ・アートについて	東京都現代美術館、新潟県立近代美術館、ジャパン・ソサエティー（ニューヨーク）	ア
写真家 鷹野隆大について	—	ア
松澤有について	長野県信濃美術館	ア

所蔵作品のキュレーションについて	シンガポール美術館（シンガポール）、大館美術館（香港）	ア
アジア圏におけるタイムベースド・メディアの研究	シンガポール美術館（シンガポール）、大館美術館（香港）	ア
パフォーマンスについて	シンガポール美術館（シンガポール）、大館美術館（香港）	ア
ヤン・ヴォーについて	—	ア
児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	大阪市教育センター、大阪府教育センター	イ
美術館教育	—	イ
所蔵作品に関する歴史的情報等の公開データの拡充、整備	—	ウ

（国立新美術館）

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
日本の現代美術の動向	—	ア
海外の現代美術の動向	—	ア
オスマン帝国の美術工芸	トプカプ宮殿博物館	ア
ウィーン世紀末の美術とデザイン	ウィーン・ミュージアム	ア
ボルタンスキーについて	国立国際美術館、長崎県美術館	ア
ハイジュエリー研究	カルティエ財団	ア
ハンガリー美術とヨーロッパ美術	ブダペスト国立西洋美術館、ハンガリー・ナショナル・ギャラリー	ア
日本のマンガ、アニメ、ゲーム	一般社団法人 マンガアニメ展示促進機構	ア
日本のファッションとデザイン	島根県立石見美術館	ア
古典と現代	國華社	ア
佐藤可士和	—	ア
イヴ・サン＝ローラン研究	国立イヴ・サン＝ローラン美術館	ア
19世紀、20世紀のフランス美術	エルミタージュ美術館	ア
アンリ・マティス	マティス美術館	ア
具体と同時代美術	—	ア
Mangaの展覧会企画運営と展示手法について	大英博物館	ア
美術館の教育普及事業（ワークショップ、鑑賞ガイド等）	—	イ
日本の近・現代美術資料	—	ウ
戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開	—	ウ
美術資料のアーカイブズ構築における編成記述方法	—	ウ
美術情報の収集・提供システム	—	ウ
美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	—	ウ